

- * 私たちキリスト者は「まことの平和」を求めてこの世で生きるものとされている。「まことの平和」とは、「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。」（エペソ 2 : 14）とあるように、キリストご自身が「まことの平和」そのものである。「まことの平和」とは先ず、私個人と神との平和があること。神から遠ざかる私たちがイエスの十字架によって神と和解、神に近づくことができるようになった。敵意がなく、良い交わりがある状態である。この関係が自分とすべての人との間にもあることが「まことの平和」の基である。
- * 信仰生活を続けて行くにしたがって信仰の闘いは大きくなっていく。闘いの内容は、① 私たちの内側の罪の誘惑との闘い。② 家族をはじめ人間関係における葛藤③ 他宗教や異端との闘い。④ 政治的な圧迫。信仰の自由を脅かすものとの闘い。「まことの平和」を求めるキリスト者は現在のこの日本の動きをどうとらえたらよいのかを問われている。集団的自衛権、安保法案、平和憲法改正など、戦争しない国から戦争できる国へと大きな転換の危機にある。今、向かっている方向は、キリスト者の立場からも間違っていると思われる。
- * これらの信仰生活の敵は、実は「悪魔、サタン」である。私たちを神から離してしまおう、神を信じることをやめさせようという力である。悪魔的力はこの世のあらゆるところに働いている。（エペソ 6 : 12 参照）私たちは「みこころが天で行われるように地でも行われますように」と祈る。神は平和を望んでおられる。イエス・キリストを送って愛と平和を説かれた。みこころは「争い、敵意」ではなく、「平和、善意」である。
- * 信仰の闘いに必要なものは何か。「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」（6 : 10 ~ 11）真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の靴、信仰の大楯、救いの兜、そしてみことばの剣。全身神様で身を固めなさい、という。素手の少年ダビデが完全武装した大男ゴリヤテに勝つことができたのは、神の武具を着けていたから。私たちも「神の武具」（＝平和の武具）を着けよう。闘う時が来れば「主の闘い」の道具になって用いてもらおう。必ず勝つことができる。しかし、この神の武具は自分で作るのではなく、神から与えられるものである。イエス・キリストの十字架と復活を信じている者にはすでに与えられている。私たちはこれらをいつも手入れをしていつでも闘えるように備えなければならない。